

指揮
ペトル・ポペルカ

ピアノ
角野隼斗

ウィーン交響楽団 広島公演

響き合う、世界最高峰と新時代 — ベートーヴェン「運命」

©Susanne Hassler-Smith

©Ryuuya Amao

©Peter Rigaud

ドヴォルザーク：序曲「謝肉祭」Op.92

ラヴェル：ピアノ協奏曲ト長調

ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」

※出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。

2026年6月1日(月) 17:00開演
(16:00開場)

呉信用金庫ホール
広島県呉市
中央3丁目10番1号

入場料

【全席指定・税込】
※未就学児童入場不可。

一般

SS席:24,000円、S席:22,000円

SS席:23,000円、S席:21,000円

くれフレンドリー
友の会

販売場所

呉信用金庫ホール、新日本造機ホール、財団インターネット予約

2月14日(土)から販売

ローソンチケット(Lコード 63486)、チケットぴあ(Pコード 316-943)

販売日

くれフレンドリー
友の会

ホール先行

1月10日(土)

一般

2月14日(土)

主催:(公財)呉市文化振興財団、呉市、中国新聞社、中国放送



呉市文化振興財団
呉市中央3丁目10番1号 呉信用金庫ホール内

お問い合わせ 呉信用金庫ホール ☎(0823)25-7878 受付時間9:00~18:00

休館日:月曜日※月曜日が休館日の場合は翌平日

公演の
詳細については
こちらから▶▶▶



【ご来館の皆様へ】●発熱や体調不良時には来館や来場をお控えください。●施設内でのマスク着用は個人の判断となります。混雑時や継続的な発声を伴う公演等、必要に応じて着用してください。●施設内での咳エチケットや手洗いの励行を推奨します。

Wiener Symphoniker Petr Popelka × Hayato Sumino

〈指揮〉 ペトル・ポペルカ Petr Popelka



真摯で包容力ある指揮で高く評価され、2024/25年よりウィーン交響楽団の首席指揮者に就任した。チェコ出身の彼は、プラハ放送交響楽団の首席指揮者・芸術監督も兼任する。2025/26年シーズンは創立125周年を記念

する特別シーズンで、10月のガラ・コンサートと欧州ツアー、続く2026年春のアジア・ツアーが予定されている。ウィーン楽友協会やコンツェルトハウスでの公演に加え、昨年好評を博したトリエステの音楽祭《Primavera da Vienna》も継続開催される。同シーズンでは、ベルリン・フィル、ミュンヘン・フィル、サンタ・チエチーリア国立アカデミー管弦楽団との初共演が実現し、シカゴ響、クリーヴランド管、ピッツバーグ響、ゲヴァントハウス管などへも再登場する。チェコ・フィルとはグラフェネク音楽祭とエネスク音楽祭に出演する。オペラでも高い評価を得ており、ウィーン交響楽団とともにアン・デア・ウィーン劇場で《こうもり》を指揮するほか、ベルリン国立歌劇場で《トスカ》、バイエルン国立歌劇場では2026年のミュンヘン・オペラ・フェスで《ルサルカ》を指揮する。指揮者としての活動は2019/20年に本格始動し、それ以前はシュターツカペレ・ドレスデンの副首席コントラバス奏者を務めた。

〈ピアノ〉 角野 隼斗 Hayato Sumino



2018年にピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、2020年に東京大学総長大賞を受賞し、一躍注目を集め。2021年にはショパン国際ピアノコンクールでセミファイナリスト、2025年にはレナード・バーンスター

イン賞を受賞。また、オーパス・クラシック賞2025を史上初の2部門で受賞するなど、国内外で実績を重ねている。これまでにシカゴ響、ロサンゼルスフィル、バンベルク響、ボストン・ポップス、N響、読響など、著名なオーケストラと共に演奏を重ねてきた。2023年よりニューヨークを拠点に活動を展開し、2024年には日本武道館での単独公演を完売で成功させた。2025年11月にはニューヨーク・カーネギーホールおよびKアリーナ横浜でソロリサイタルを開催し、Kアリーナ横浜公演は「屋内のソロピアノリサイタルで販売されたチケットの最多枚数」でギネス世界記録に認定された。YouTubeでは「Cateen(かていん)」名義で発信を続け、登録者数は152万人を超える。作曲家として映画『ナイトフラワー』ED楽曲の提供をはじめ、映画、テレビ、CMなど幅広い分野で活動している。2024年にSony Classicalと契約を結び、世界デビューアルバム『Human Universe』をリリースし、2026年1月には『CHOPIN ORBIT』をリリース予定。音楽を通じて国境や世代を越えたつながりを生み出す存在として、今後のさらなる飛躍が期待されている。

〈管弦楽〉 ウィーン交響楽団 Wiener Symphoniker



豊かな歴史と搖るがぬアイデンティティ、そして尽きない探求心を携え、125年以上にわたりウィーン音楽文化の中心として鼓動し続けてきた。現在はペトル・ポペルカが首席指揮者を務める。1900年の創立以来、同団は

20世紀の多様な挑戦に積極果敢に向き合い、ウィーンで初めてベートーヴェンの交響曲全曲チカルスを演奏した。ベートーヴェンの革新的な遺産やウィーン・ロマン派の作品は、同団の“本領”ともいえる核となるレパートリーであり、今日でもその分野を代表する存在である。一方で、新作初演オーケストラとしての地位も早くから確立し、ブルックナー《交響曲第9番》、シェーンベルク《グレの歌》、ラヴェル《左手のためのピアノ協奏曲》など、音楽史に残る重要な初演を担ってきた。歴代首席指揮者にはフルトヴェングラー、スワロフスキ、カラヤン、サヴァリッシュ、プレートルなど数多くの名匠が名を連ねる。ウィーン市の公式文化大使として世界で活躍し、プロムシユート、ハーディング、ホーネック、マケラといった指揮者が客演するほか、アン・デア・ウィーン劇場でのオペラ出演も行う。さらに1946年の創設以来、ブレゲンツ音楽祭の専属オーケストラとして湖畔に“第二の本拠地”を築き、2025年からはイタリア・トリエステで春の音楽祭《Primavera da Vienna》を毎年開催している。